

2024年9月実績概要（メモ）

（2024.10.17）

エチレンの減産に加えて秋の誘導品の定修時期に入り、誘導品の生産もマイナスが大勢となる。

1. 生産動向

イ) エチレン 389,700トン

前月比 ▲3.4% (▲13,800トン)

前年同月比 ▲9.7% (▲42,000トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2%	-
定修要因等	+ 1.9%	▲ 7.9%
能力増減	-	-
稼働率変動	▲ 2.1%	▲ 1.8%
生産増減率	▲ 3.4%	▲ 9.7%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月81.7%* → 当月80.2% ← 前年同月81.5%

定修プラント：前月1社1プラント → 当月1社1プラント ← 前年同月なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数減と定修規模差からLDPE、PS、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、AN、SBR、ベンゼンなどの12品目がマイナス。HDPE、PPなどの5品目はプラスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因から、PP、PS、SM、MMAモノマー、AN、SBR、ベンゼン、キシレンなどの11品目がマイナス。HDPE、EG、BR、トルエンなどの6品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、LDPE、PSは日数減と定修規模の拡大に伴い大幅なマイナス。HDPE、PPは主に稼働率要因からプラスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因等からLDPE、PP、PSはマイナス、HDPEのみはプラスとなった。

ロ) 国内出荷

消費マインドは、緩やかながらも持ち直しの動きが続いている。国内の生産活動は、8月時点は生産の低下が見られ、9月以降は多くの産業で増加予測が出されるもマインドはやや鈍化する見方が見られている。

汎用樹脂の出荷は、夏季休暇があった前月に対しては、当月は4樹脂揃って大幅なプラスとなった。他方、前年比は、4樹脂揃ってマイナスとなり、9月単月では近年ではいずれも低めの出荷となった。

分野別の出荷状況としては、LDPE、HDPEはフィルム分野をはじめ、ほぼ全ての出荷分野で前年を下回った。PPは包材関係のフィルム分野では前年を上回る出荷が続いているが、主要途の射出成形分野の出荷は、4か月連続してのマイナスとなった。PSは、電機・工業用はプラスが継続しているものの、包装材をはじめその他の出荷分野は前年を下回ることとなった。

ハ) 輸出

原油、ナフサなどの原料動向の先行きの見極めにくい状況の中、前月比は、LDPE、HDPE、PPはプラスとなったが、前年比では、LDPE、HDPE、PPはマイナス。PSのみがプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、PP、PSで減少し、HDPEのみは増加した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、PP、PSは低下、HDPEは上昇した。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PP、PSとも高めの水準のままとなっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		8月末	9月末
LDPE	▲ 23,100	3.6	3.4
HDPE	+ 17,400	3.3	3.7
P P	▲ 1,800	3.2	3.1
P S	▲ 13,400	2.3	2.0

前月からの修正を*で付記

以上